

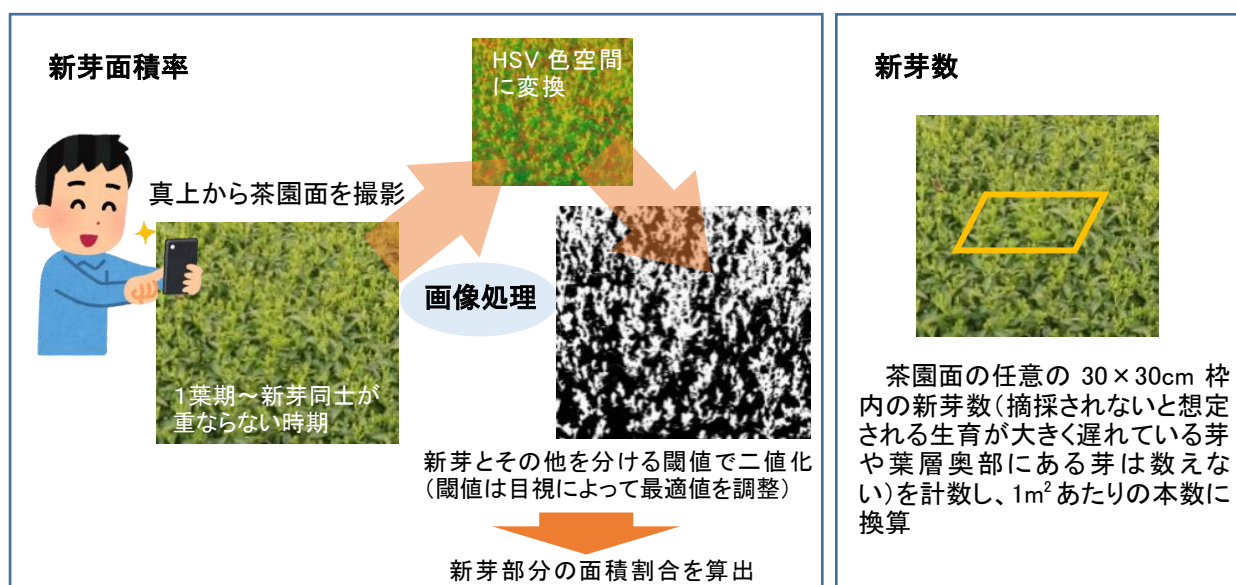
茶園面の撮影画像から一番茶収量を予測できる

利用対象：茶生産者、普及指導員

背景

一番茶の摘採日は、農業者が管理する茶園の新芽の生育状況を確認し、個人の経験や感覚によって決定しています。目標の収量・品質の茶をより多く得るために、茶園ごとの生育差を正確に把握し、摘採計画を立てることは重要です。しかし近年、経営面積の大規模化等により、頻りに茶園全体を見回ることができなかつたり、複数の作業者が分担して見回った場合の個人差等、同一基準で生育状況を把握することが難しい場面が出てきています。

そこで、同一基準での生育状況の把握および収量の想定ができるよう、茶園面の撮影画像から収量を予測するモデルを作成しました。



$$Y = 0.0112X_1 + 0.0519X_2 + 0.000474X_3 - 1.047$$

Y: 一番茶予測収量(kg/m²)

X₁: 新芽面積率(%)

X₂: 撮影日から摘採予定日までの日数(日) 任意に設定

X₃: 新芽数(本/m²)

※この予測式で、農業研究所茶業・花植木研究室(亀山市)“やぶきた”成園の一番茶煎茶の収量(秋整枝面より2cm上の高さで摘採)を9%程度の誤差で予測できました。
この予測式が適応できる範囲(地域、品種、栽培方法など)については未検討です。

お問い合わせ先	茶業・花植木研究室 茶業研究課 松田智子 電話 0595-82-3125
参考になる資料	https://www.pref.mie.lg.jp/nougi/hp/74882027005.htm (三重農研HP)